

令和 6 年度読谷中部地区
保全土壌等調査業務

令和 7 年 3 月

読谷村役場

ゆたさむら推進部 農地活用推進課



株式会社 南西環境研究所

調査結果について

沖縄県が令和5年度に実施した「令和5年度有機フッ素化合物残留実態調査」の中で土壌のPFAS調査を行っており、この調査の土壌溶出量試験においては、今回の調査と同じ分析方法(土壌中のPFOS、PFOA及びPFHxSに係る暫定測定方法(溶出量試験))を採用している。その調査結果と今回の調査結果を比較すると、PFOS、PFOAおよびPFHxSの3項目すべてで、県が実施した調査結果より今回実施した調査結果のほうが平均値および中央値を上回った。特にPFHxSについては、県の調査結果の最大値を上回る値となった。

しかしながら、今回実施した土壌溶出量試験のPFOS、PFOA及びPFHxSに関して、現時点で国(環境省)の基準値が制定されていないことから、今回の調査で当該調査区域の汚染の有無を判断することはできない。今後は国の基準値等の設定を注視しながら、その都度適切な対応を取ることが望ましいと考える。

表 令和5年度に沖縄県が実施した土壌調査結果と今回の調査結果

全市町村		PFOS	PFOA	PFHxS
	平均値	12	20	0.7
	中央値	5.2	11	0.2
	最大値	92	95	9.4
	最小値	0.5	3.5	<0.2
今回実施した調査結果		21	27	15

単位:ng/L

※沖縄県の調査結果の詳細については、資料に添付。

調査位置図

